

令和元年における刑法犯の認知状況

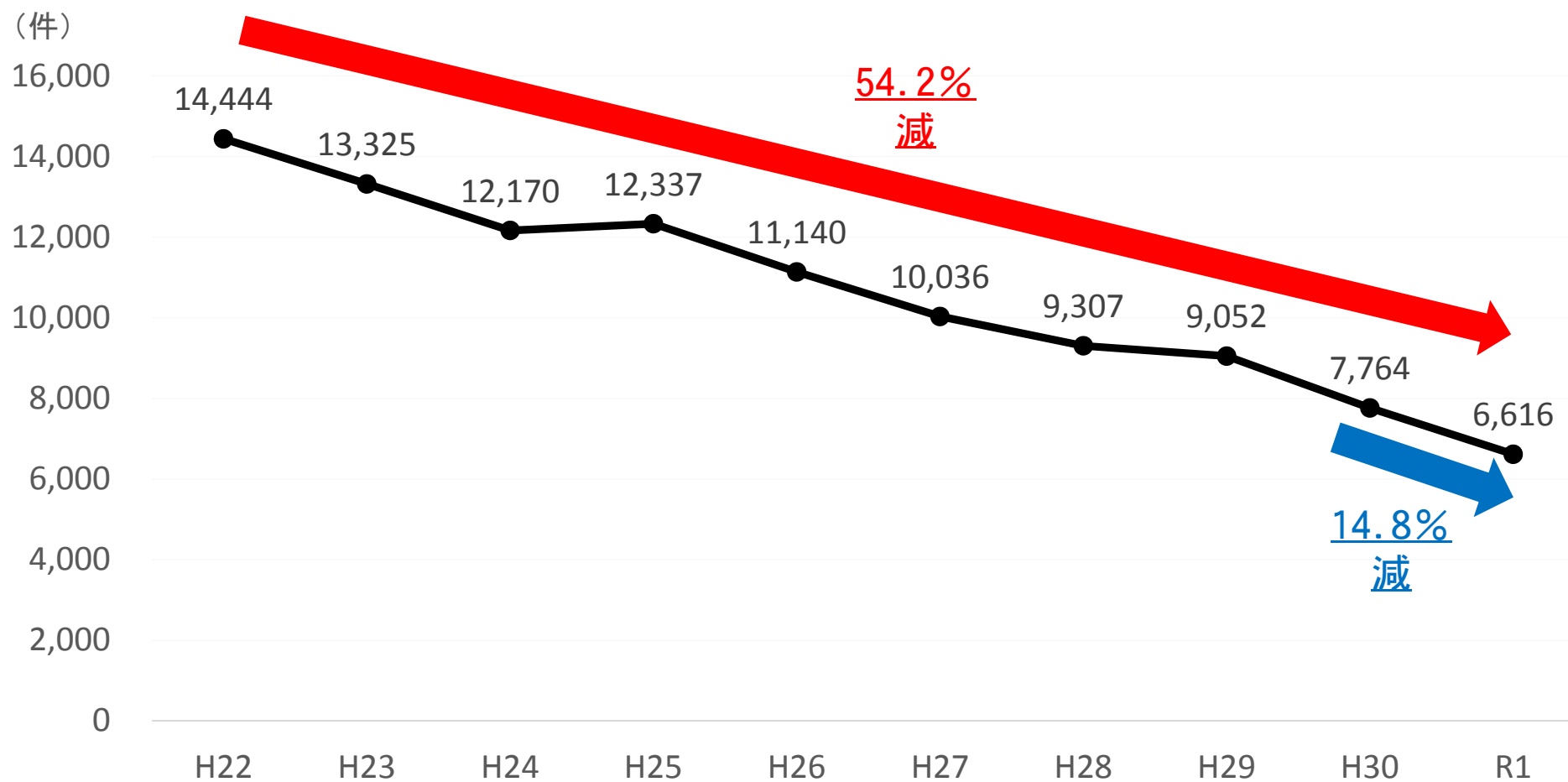


奈良県警察本部
生活安全企画課
犯罪抑止対策室

1 刑法犯の認知状況



刑法犯認知件数の推移



○ 令和元年の刑法犯認知件数は6,616件。
(前年比で1,148件・14.8%減少、過去10年間で7,828件・54.2%減少)

罪種別認知件数の前年との比較（減少への寄与率）

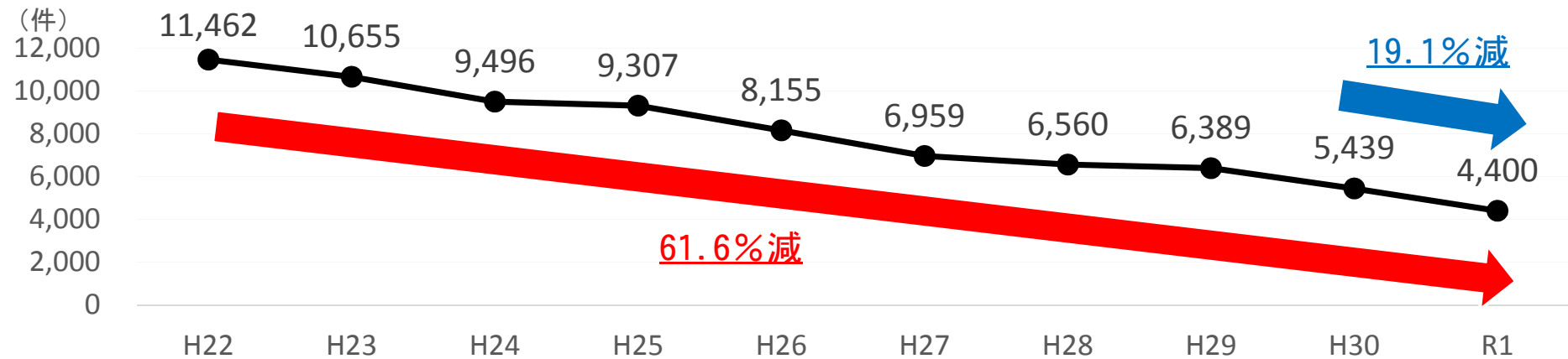
	令和元年 認知件数(件)	対前年 増減件数(件)	減少への 寄与率(%)
刑法犯総数	6,616	-1,148	-
凶悪犯	25	-8	0.7
粗暴犯	518	29	-2.5
窃盗犯	4,400	-1,039	90.5
知能犯	394	-33	2.9
風俗犯	112	6	-0.5
その他の刑法犯	1,167	-103	9.0
うち器物損壊等	915	-86	7.5

- 刑法犯総数の前年比の減少数(1,148件)のうち、90.5%(1,039件)を窃盗犯が占める。
- 窃盗犯以外では器物損壊等の寄与率が高い(86件減少、寄与率7.5%)

※ 寄与率は、データ全体の変化を100とした場合に、構成要素となるデータの変化を示す指標

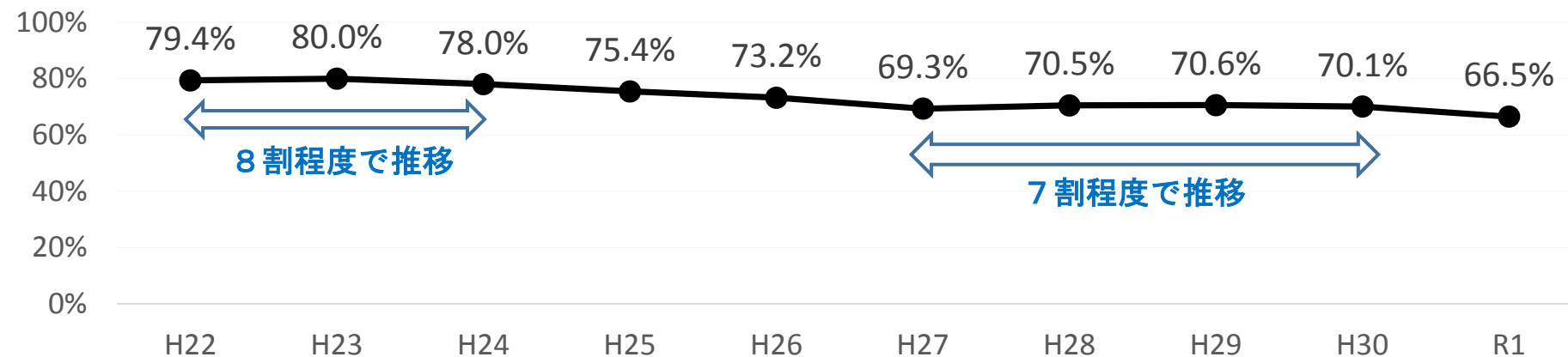
窃盗犯認知件数の推移

● 窃盗犯の認知件数の推移



○ 令和元年の窃盗犯認知件数は4,400件。
(前年比で1,039件・19.1%減少、過去10年間で7,062件・61.6%減少)

● 刑法犯認知件数に占める窃盗犯の割合の推移



○ 刑法犯認知件数に占める窃盗犯の割合は下降傾向にあり、令和元年は66.5%。
(前年比で3.6ポイント下降、過去10年間で12.9ポイント下降)

窃盗犯の手口別認知件数の前年との比較（減少への寄与率）

	令和元年 認知件数(件)	対前年 増減件数(件)	減少への 寄与率(%)
窃盗犯総数	4,400	-1,039	-
非侵入窃盗その他	607	-259	24.9
車上ねらい	313	-171	16.5
自転車盗	905	-138	13.3
万引き	1,045	-101	9.7
部品ねらい	197	-82	7.9
オートバイ盗	83	-74	7.1
置引き	207	-61	5.9
その他	1,043	-153	14.7

○ 窃盗犯の減少への寄与率について手口別にみると、非侵入窃盗その他、車上ねらい、自転車盗、万引きの順に寄与率が高い

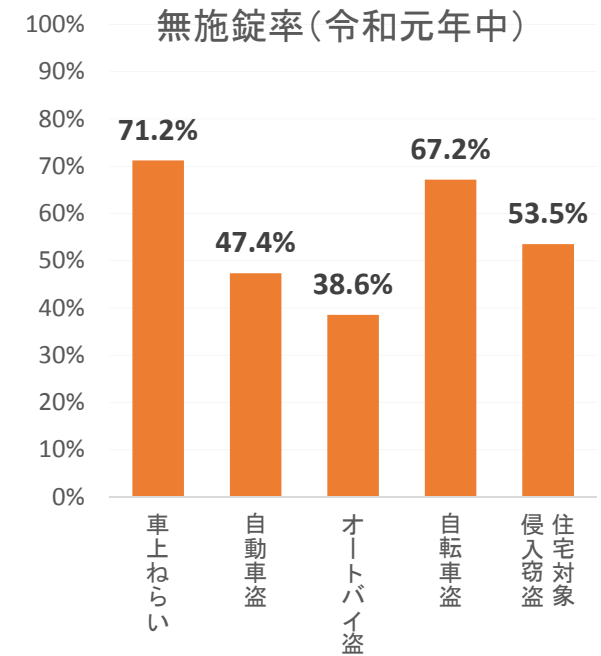
※ 寄与率は、データ全体の変化を100とした場合に、構成要素となるデータの変化を示す指標

2 住宅や車両をねらった窃盗犯の状況



無施錠被害の状況（過去5年間の認知件数の推移）

	H27	H28	H29	H30	R1	増減率（％）	
						対H27比	対H30比
車上ねらい(件)	550	726	733	484	313	-43.1	-35.3
無施錠	275	369	403	276	223	-18.9	-19.2
無施錠率(％)	50.0	50.8	55.0	57.0	71.2	21.2	14.2
施錠	275	357	330	208	90	-67.3	-56.7
自動車盗(件)	101	72	94	67	38	-62.4	-43.3
無施錠	18	37	42	31	18	0.0	-41.9
無施錠率	17.8	51.4	44.7	46.3	47.4	29.5	1.1
施錠	83	35	52	36	20	-75.9	-44.4
オートバイ盗(件)	337	253	269	157	83	-75.4	-47.1
無施錠	135	85	122	68	32	-76.3	-52.9
無施錠率	40.1	33.6	45.4	43.3	38.6	-1.5	-4.8
施錠	202	168	147	89	51	-74.8	-42.7
自転車盗(件)	1,753	1,520	1,295	1,043	905	-48.4	-13.2
無施錠	969	890	832	724	608	-37.3	-16.0
無施錠率	55.3	58.6	64.2	69.4	67.2	11.9	-2.2
施錠	784	630	463	319	297	-62.1	-6.9
住宅対象侵入窃盗(件)	334	340	394	273	269	-19.5	-1.5
無施錠	108	174	179	121	144	33.3	19.0
無施錠率	32.3	51.2	45.4	44.3	53.5	21.2	9.2
施錠	226	166	215	152	125	-44.7	-17.8



※ ここでは、以下の手口分類を「無施錠」と表現する

○ 車上ねらい／自転車盗

→ 施錠なし

○ 自動車盗／オートバイ盗

→ キーあり

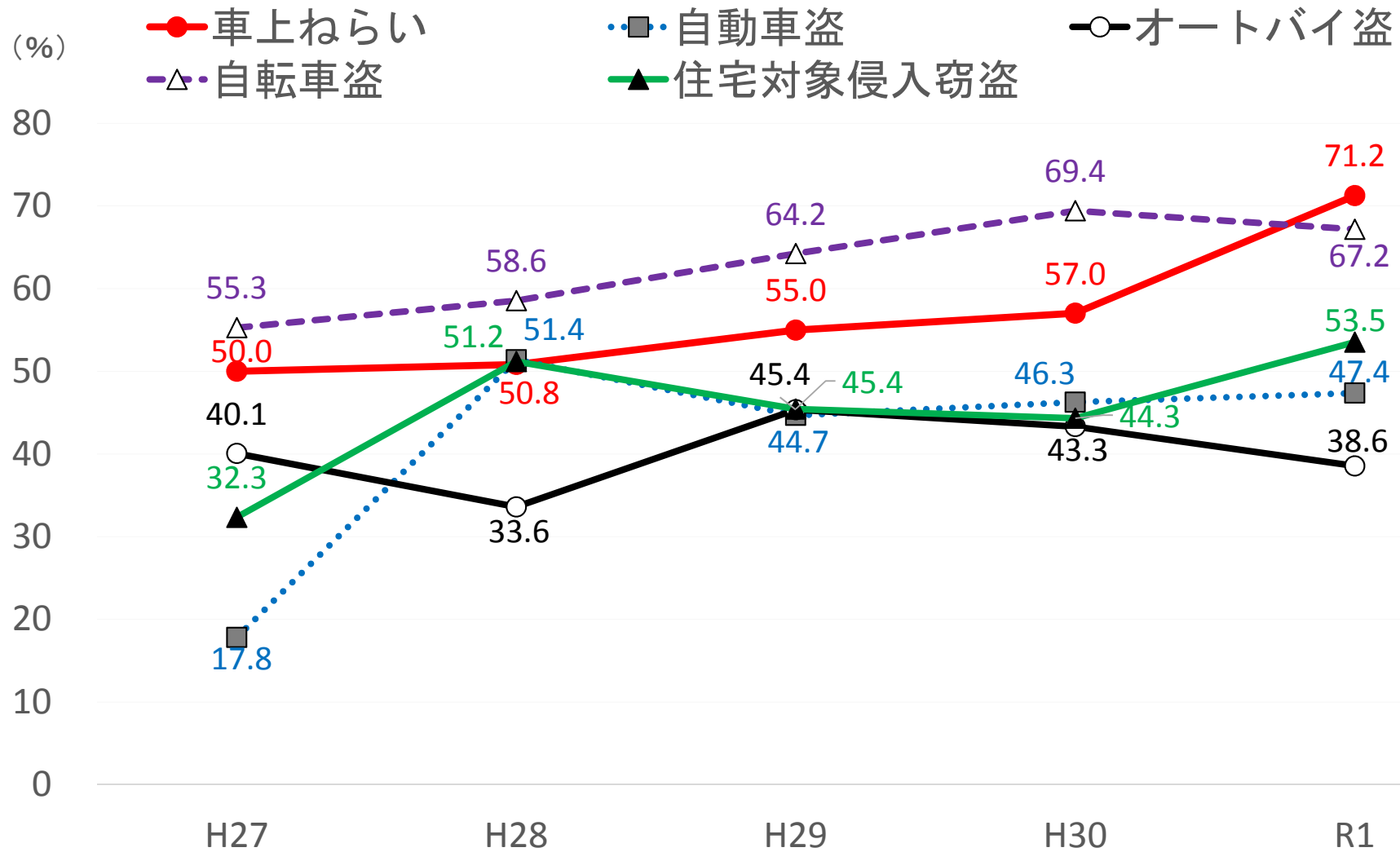
○ 住宅対象侵入窃盗

→ 侵入手段が「無締り」

※ 「無施錠率」は、被害全体に占める「無施錠での被害」の割合

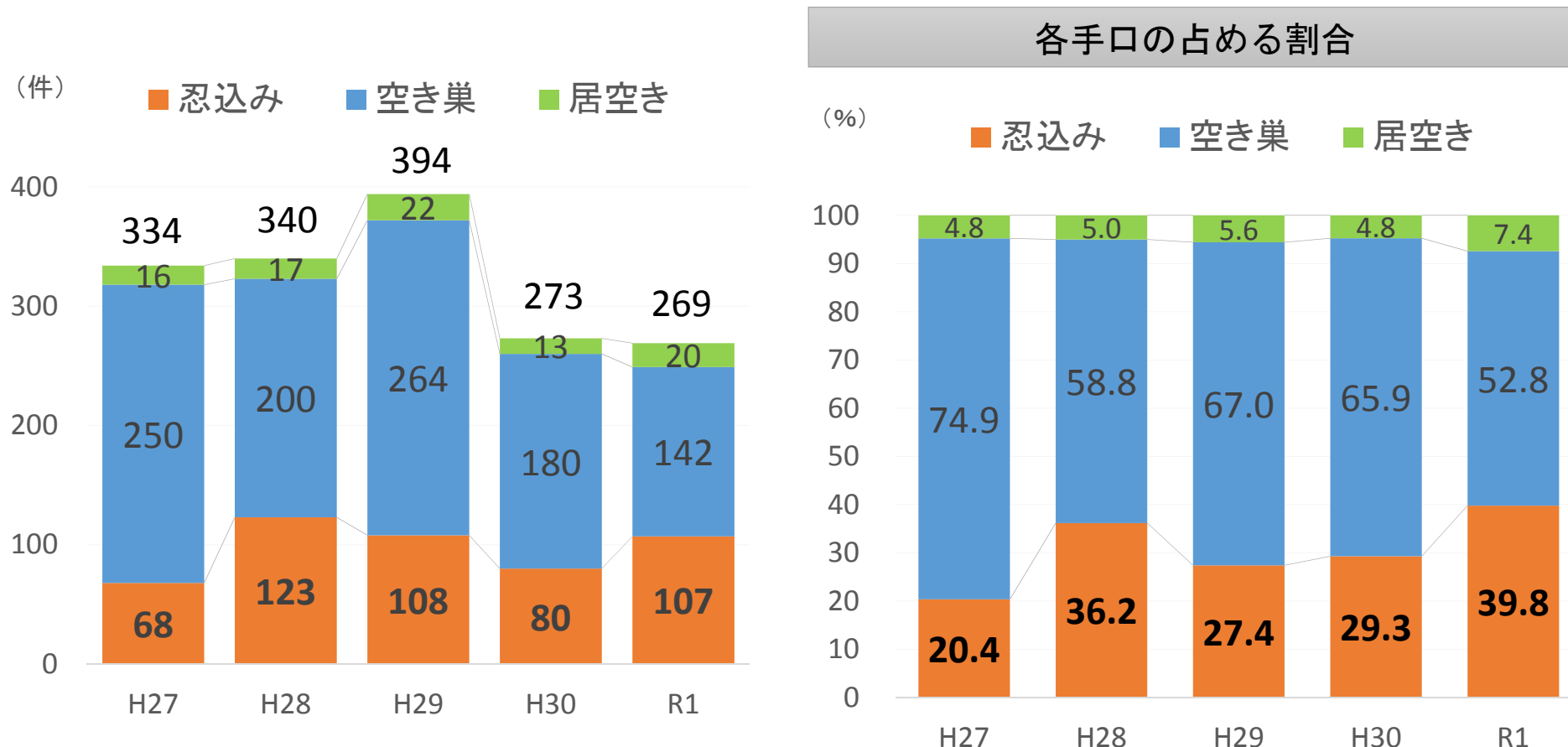
- 各手口とも、令和元年中の認知件数は前年から減少。
- 過去5年間では、オートバイ盗を除くすべての手口で無施錠率が上昇。
- 前年比では、車上ねらい、自動車盗、住宅対象侵入窃盗の無施錠率が上昇。

無施錠被害の推移



○ 車上ねらい、自転車盗の無施錠率が上昇傾向(自転車盗は前年比では下降)

住宅対象侵入窃盗の手口別認知件数の推移



- 空き巣は過去5年間で108件、前年から38件減少したが、忍込みは過去5年間で39件、前年から27件増加した。
- 住宅対象侵入窃盗に占める忍込みの割合は年々増加傾向にあり、令和元年は4割近く(39.8%)を占めた。
→ 忍込みの大半は、無施錠被害

※ 「空き巣」は住人が不在時、「忍込み」は住人が在宅時(夜間)、「居空き」は住人が在宅時(昼間)に、それぞれ住宅に侵入し、金品を盗む手口。

3 特殊詐欺の認知状況



特殊詐欺認知件数の推移（被害の形態別）

	H27	H28	H29	H30	R1
特殊詐欺認知件数(件)	77	157	158	134	175
キャッシュカード型	10	1	32	68	120
電子マネー型		12	18	6	29
振込型	32	91	52	14	9
現金手交型	15	38	37	23	8
現金送付型	20	15	19	17	7
収納代行利用型				6	2

令和元年中

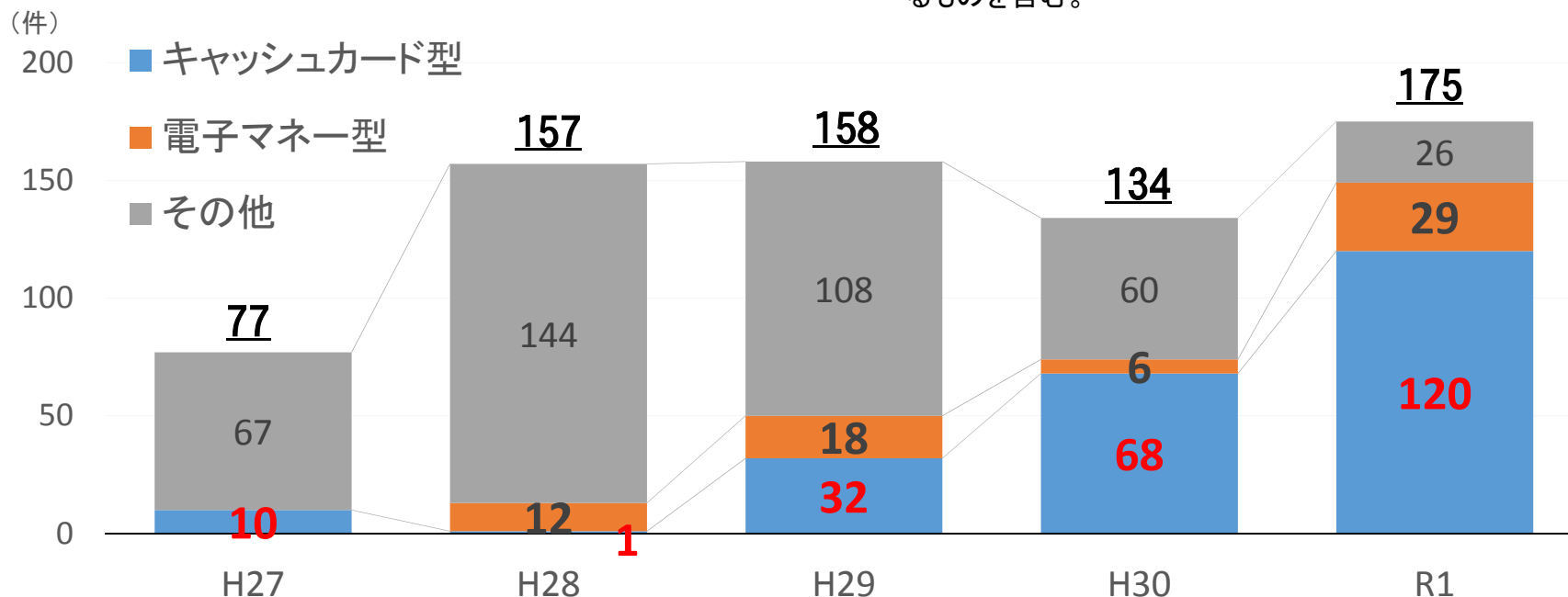
認知件数 175件(41件増加)

被害総額 約2億3,840万円

(約2億6,040万円減少)

※「電子マネー型」は平成28年から、「収納代行利用型」は平成30年から統計開始。

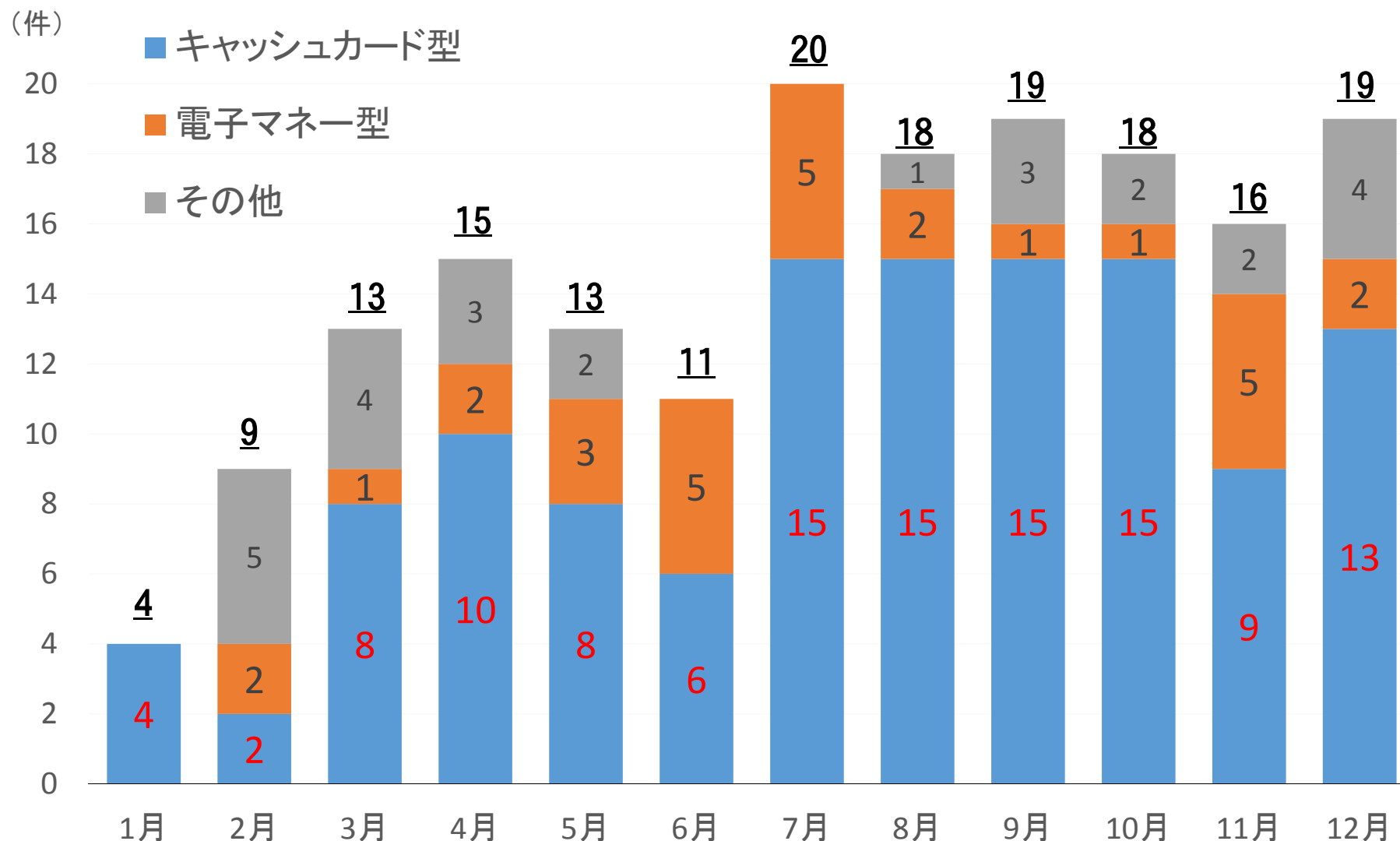
※「キャッシュカード型」は、平成30年からは窃盗の手口によるものを含む。



○ 令和元年の特殊詐欺認知件数は175件で、過去5年間で最多。

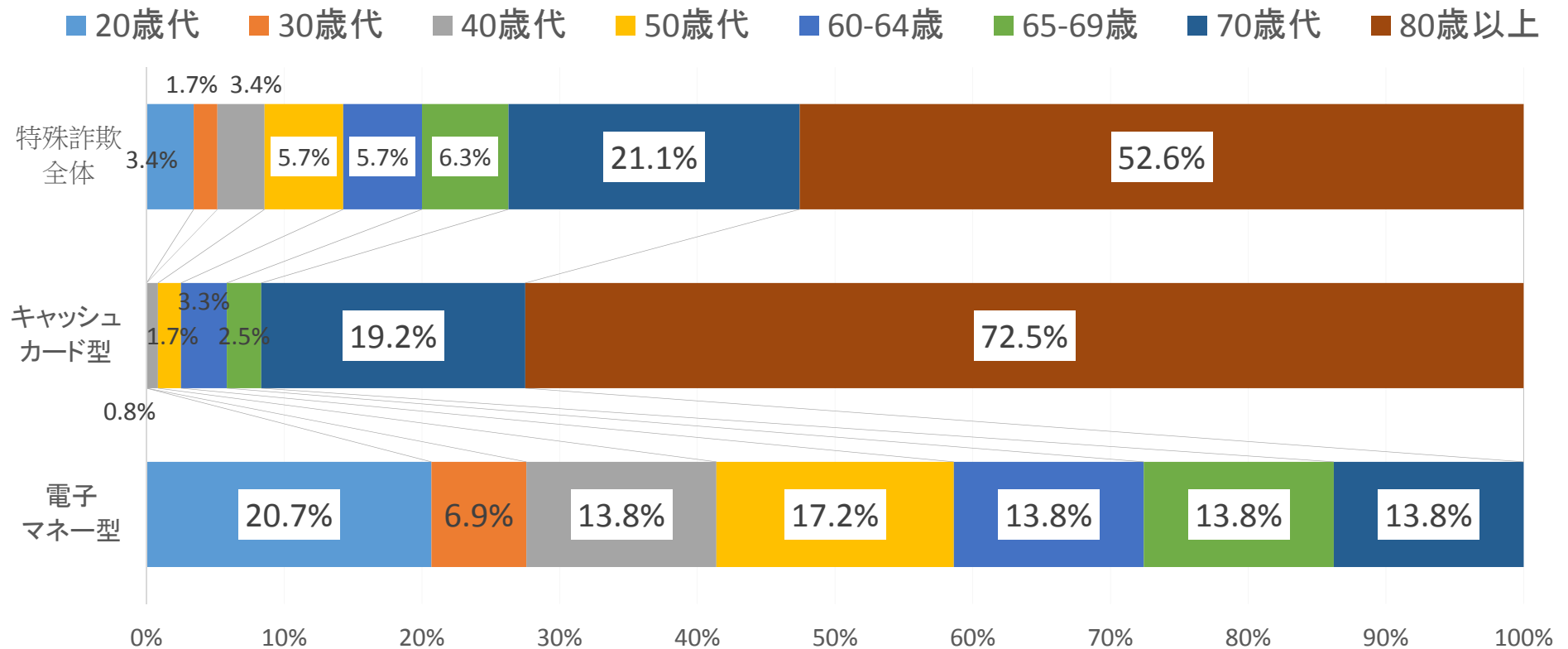
○ 「キャッシュカード型」と「電子マネー型」が増加にあり、令和元年中はこの2つの被害形態が特殊詐欺全体の85.1%を占めた。

令和元年中の月別の特殊詐欺認知件数



○ 7月以降多発し、16件以上で推移(うちキャッシュカード型は9件以上で推移)

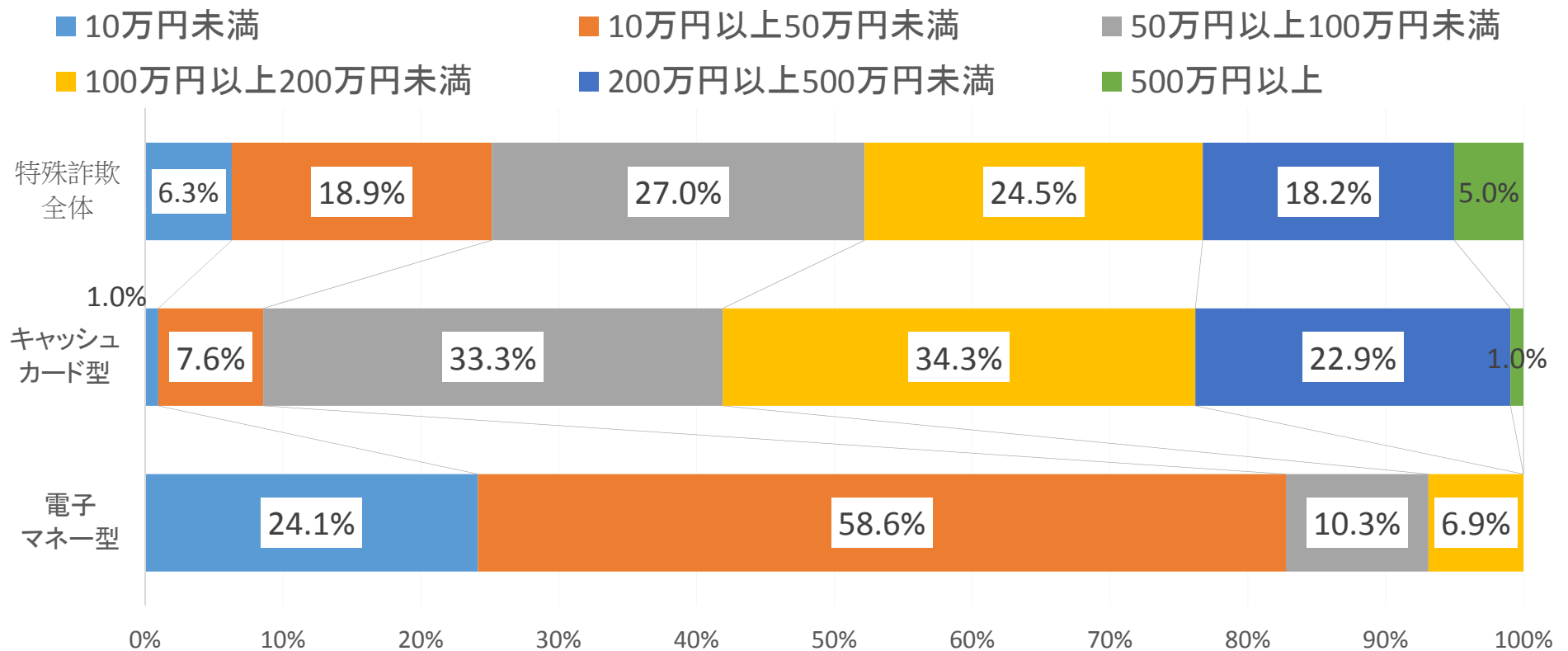
被害者の年齢層



	特殊詐欺全体	
	キャッシュカード型	電子マネー型
被害者合計(人)	175	29
20歳代	6	6
30歳代	3	2
40歳代	6	4
50歳代	10	5
60-64歳	10	4
65-69歳	11	4
70歳代	37	4
80歳以上	92	0

- 特殊詐欺被害者の80.0%が65歳以上の高齢者で、80歳以上の被害者は全体の52.6%。
- 「キャッシュカード型」では、94.2%が65歳以上の高齢者で、80歳以上の被害者は全体の72.5%。
- 「電子マネー型」では、被害者の年齢層に偏りは見られず、65歳未満の被害者が全体の72.4%を占める。

被害総額（未遂被害、被害額が0円のものを除く）



	特殊詐欺全体	
	キャッシュカード型	電子マネー型
認知件数(件)	159	29
10万円未満	10	7
10万円以上50万円未満	30	17
50万円以上100万円未満	43	3
100万円台	39	2
200万円以上500万円未満	29	0
500万円以上	8	0

※ 未遂被害及び被害額が0円のものを除く。

- 特殊詐欺全体では、100万円未満の被害と100万円以上の被害が半々（52.2%、47.8%）。
- 「キャッシュカード型」では、67.6%が50万円以上200万円未満の被害であるが、200万円を超える高額被害も23.8%を占める。
- 「電子マネー型」では、82.8%が50万円未満の被害。